

まちづくり重点戦略(素案)について

1. 定義と役割

(1) 定義

上越市のまちづくりにおける重要課題に対応しつつ、将来都市像を実現するために、特に戦略的・優先的に取り組むべき分野横断的な政策。

(2) 役割

全庁的な視点

安定的で実効性ある市の重要政策を端的に示し、それを実現する事業群(重点プロジェクト)を策定するよりどころとする。

どの分野の課題もつきつめて考えれば、根底の部分でつながっている側面がある。

重点プロジェクトについては、市として優先的に実施できる措置を講ずる必要あり。これによってはじめて、効率的・効果的な政策の実現が可能となる。

市外への発信の視点

上越としてふさわしい切り口や柱を決め、徹底した取組を積み上げていくことによって、その取組自体が上越市のブランドとして求心力を持つなど、結果的に効率的・効果的な政策とすることができる。

担当課の視点

縦割りによる組織体制を補完し、分野横断的な事業の実施順序やタイミングの一致を図ること(時間軸の統制)により、より効率的・効果的な政策を実現する。

市民の視点

分野別・地域別とは異なった切り口で政策を提示することにより、上越らしいライフスタイルの一端を提案する。

2. 検討のポイント

実効性と実現性を担保するため、以下の点に留意して検討する。

論理的な作成

理想実現プロセス(将来都市像・基本理念)および課題解決プロセス(各分野で直面する課題と取組方向)の両面から、多面的なつながりを有する結合点(ツボ)となるような政策を選定する。

ただし、北陸新幹線開業といった一つの現象への対応や、人口減少への対応といった総花的なものとならないよう留意する。

関係課間で相乗効果を発揮する(持ちつ持たれつ、お互い様となる)関係の構築

連係プレーを行うことによって、はじめて効果的・効率的な政策の実現が可能となる事業群を選定する。

また、各課が担当事業の責任を確実に果たすことを前提としつつ、主管課が全体のコーディネートに気を配るような連係をイメージしたテーマを選定する。

- ・ 同じ要因が他の分野へも影響を与えており、同じ対策が他の分野でも有効なものについては、対象または手法が同じなので、一緒に取り組めば事業の合理化またはパワーアップが可能。

例：ウォーキングの促進 = 健康増進 + まちの再発見

- ・ 複数分野で同時に取り組むことで、各分野で目指す目的を同時に追求できる。

例：公共交通の利便性向上 + ノーマイカーデー実施 + 買い物割引券発行
= 公共交通の利用促進 + 環境負荷の軽減 + 中心市街地活性化

例えば、全庁的に統一的な視点に基づく取組が必要なものや、地道に取り組むものなどについては、戦略とは異なるアプローチの方を採用する（担当課による基本方針の作成と周知、自立・共生、行財政分野での取組、担当課による各課照会など、様々な代替法がある）。

戦略間での一定の独立性の保持

どのような切り口で戦略を提示しても必ず戦略間の連携は発生するが、検討を進めていく段階で混乱なく線引きができ、一定の独立性を持って取り組むことのできる（一体的に取り組まなくても支障はない）よう選定する。

魅力的なライフスタイルをイメージできる提示方法

分野横断的取組の中でも、市民や来訪者等への効果や、その結果として魅力的なライフスタイルがイメージできるような戦略を提示する。

プロジェクト対象事業の絞込み

プロジェクトの数は一定量に絞り込む必要がある。分野横断的な管理を行うべき業務や組織が多数になれば、プロジェクト同士の調整が新たに発生することで業務が混沌とし、組織全体のパフォーマンスがかえって下がる可能性が高いので注意が必要である。

各プロジェクトに該当する事業の数についても同様である。あまり多くの事業を選定すると、その時点で「重点」ではなくなってしまうことから、プロジェクトを構成するうえで必須度が高い事業や、他の事業との連携性・連続性の高い事業を選定する。

3. まちづくり重点戦略(素案)の概要

㊦ 交流(人との出会い、つながり)をつくる

市民や地域資源の有する多様性をベースとしながら、人と人や地区間の交流・連携により生まれる力をいかしたまちづくりを進める。

コミュニティ内の交流(“ご近所の底力”の向上)
地域ぐるみの子育て、福祉、防災、スポーツなど

市内の交流・循環(“地産地消”の推進)
農山村活性化や環境保全・防災機能の強化など

市外との交流(“上越サポーター”の獲得)
地域の活力向上や地域経済活性化

㊦ 基盤をつくる

中長期的な視点から足腰の強い(強さとやさしさを兼ね備えた)上越市を構築するため、地域資源を活用した学習の基盤と都市基盤の体系化(強化)を図る。これらが強化されることによって、より効果的な交流の実現が可能となる。

体系的な学習基盤(“上越の楽校・上越学”の確立)
生きる力、まちづくり、なりわいづくりのための学びの習得
生きがいとライフワーク、上越市への愛着と誇りにつながる生涯学習の推進

体系的な都市基盤(求心性のある空間の創出)
中心市街地や各区の中心地の活性化、公共交通の活性化
歩いて暮らせ、にぎわいのあるまちづくり

重点戦略名（仮称） 1. コミュニティ内の交流をつくる （“ご近所の底力”の向上）	関連キーワード（ 1 ） 多世代交流、コミュニティケア、 ソーシャルキャピタル
--	--

概要

地域コミュニティの多様な人々が集い、共に刺激等を受けることによって、それぞれが抱える子育てなどの課題解決や生きがいづくりなどの理想実現に寄与できる場やしくみを創出する。

また、地域の課題を地域ぐるみで考え、解決していくことができるしくみをつくる。

取組の一例

- ・ ファミリーサポート事業
- ・ 福祉機能と子育て機能の融合
- ・ 校庭と公園の融合
- ・ 安全・安心パトロール
- ・ 地域学習・活動アドバイザー
- ・ がんばる地域、地域発の事業提案への支援（構造改革特区や地域再生事業のコミュニティ版）

効果（ 2 ）

子育て環境の向上（担い手の確保、学校以外での知識の習得）

高齢者等の生きがいづくり

災害や犯罪に打ち勝つ地域力づくり

- ・ 思いやりの心、公共心の醸成、共助の拡大

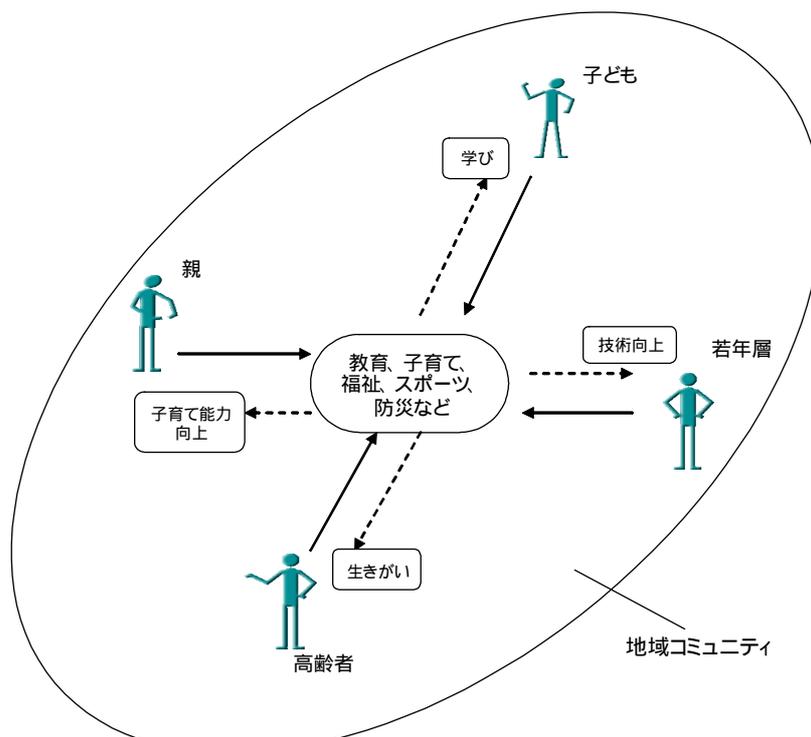
（最終的に）目指す姿

- ・ 地域コミュニティの中で、住民が抱える課題を地域全体の課題としてとらえつつ、多様な人々との出会いが増え、地域の問題解決に向けて一人一人の持つ能力が発揮され、そのことを生きがいに感じる市民が増加する。

基本方針（留意点）

- ・ 個人・民間・行政よりも、地域コミュニティで取り組むことが効率的・効果的なテーマについて優先的に検討する。
- ・ 上記の取組を支え、促進するシステムを検討する（機会の平等と頑張る地域の支援、窓口・経済的支援等の一元化 など）

全体イメージ図



- 1 重点戦略の内容を端的に示す他の表現方法
- 2 はプロジェクトの主要目的 ・ は結果として達成される目的であり、主目的とはしない

重点戦略名（仮称） 2. 市内の交流・循環をつくる （“地産地消”の推進）	関連キーワード 市街地と農山村の交流、 一体感の醸成、半農半X
--	--

概要

教育、福祉、地域経済、環境保全などの観点から農山村部の価値を積極的に引き出し、農山村部と市街地がそれぞれを支えあい、高めあう関係となるような市内交流を進め、自然や農に親しむ魅力的なライフスタイルを創出する。

取組の一例

- ・ 朝市、特産品開発、6次産業化などによる地産地消（商）
- ・ 生ごみの堆肥化・飼料化
- ・ 市民農園
- ・ 棚田・植林・除雪サポーター
- ・ クマ対策を兼ねた柿もぎツアー
- ・ 住まいのトレード（一定期間）

効果

市街地と農山村がもつ機能の相互理解
 地域内の産業連関強化による地域経済活性化

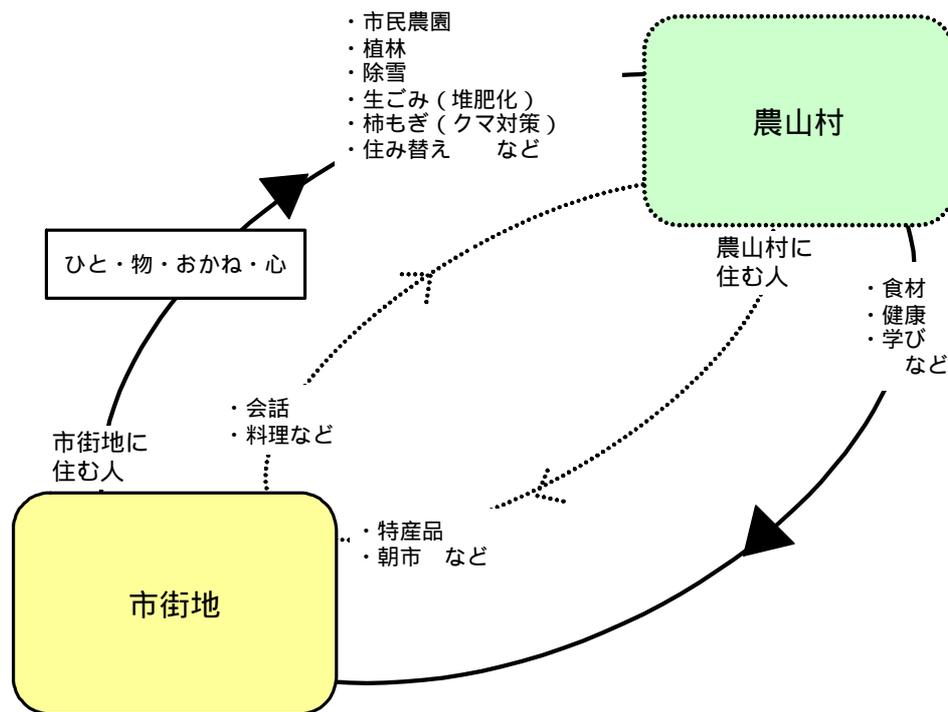
- ・ 中山間地の集落や農地を支える担い手確保
- ・ 里山の手入れによる防災機能等の向上
- ・ 物質的な循環を強めることによる環境負荷の削減

（最終的に）目指す姿

- ・ 1人でも多くの市民が農山村活性化の全市的な意義を見出し、「農山村」対「市街地」の構図を解消する。
- ・ 自然体験や農作業に関わる住民が増加する。

基本方針（留意点）

全体イメージ図



重点戦略名（仮称）

3. 市外との交流をつくる （“上越サポーター”の獲得）

関連キーワード

4つの人口（情報交流・交流・二地域居住・定住）、UIJターン

概要

上越市の訪問者が他の訪問者や市民と出会うきっかけを創出し、その出会いが上越への印象を深め、さらなる関係へと発展するような誠意あるおもてなしを行う。

対象者は、観光客にとどまらず学生やサラリーマン、帰省客などの多様な訪問者を想定し、情報交流・交流・二地域居住・定住の連携や、周辺都市の連携などを視野に入れた取組を進める。

取組の一例

- 都市部の学生を対象とした田舎体験
- 都市部の大学生、市内大学生と地域住民の交流
- （広義の）雪国文化をテーマにしたイベント
- 就農希望者向けの農業塾
- 新規定住支援

効果

まちづくりの支援者獲得（知恵・労力の源、経済的支援）

地域の活力向上（元気の源） ・ 外貨獲得

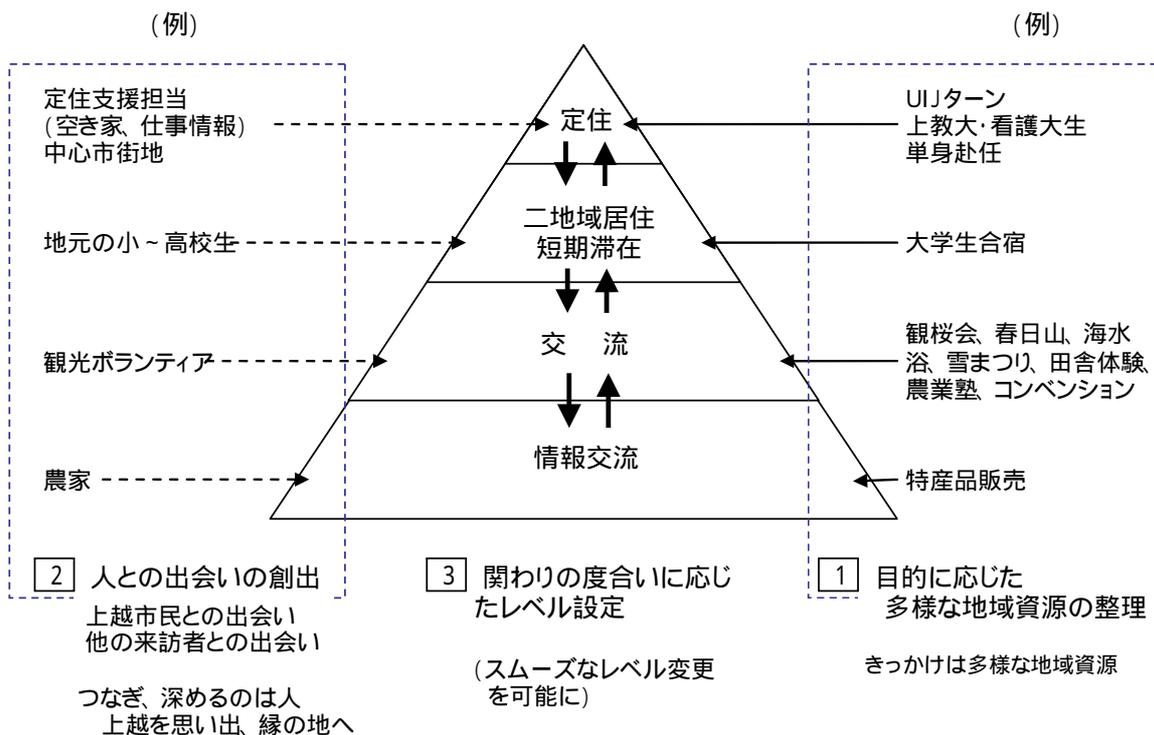
（最終的に）目指す姿

- 上越のことを好きな上越ファン、上越のまちづくりを情報・労力・経済的な面から支援してくれる人々（上越サポーター）、交流・二地域居住・定住人口が増加する。
- 交流の通年化により、観光・交流関連産業が活性化する。

基本方針（留意点）

- あくまでも多様な人口の獲得を目指すものであり、定住人口の拡大に固執せず、段階的なアプローチをとる。
- 外貨獲得は満足度の対価であり、継続的な交流が図られること（リピーター化）に力点を置く。

全体イメージ図



重点戦略名（仮称）
4. 体系的な学習基盤をつくる
（“上越の楽校・上越学”の構築）

関連キーワード
 生涯学習、地域学、まちじゅう博物館（地域まるごとテーマパーク）、エコミュージアム、キッザニア

概要

上越市内の有形・無形の資源を活用し、食育、環境教育といった生きる力を育む学習、上越市の抱える課題や魅力について学ぶまちづくり学習、発想力や専門性を強化するなりわいを生み出す学習などを、気軽に楽しく学べる“カリキュラム”づくりやテーマ設定を行う。

取組の一例

- ・ 地域資源を活かした子どもたちの学習の場づくり
- ・ 雪国文化、海洋汚染等、上越固有のテーマに基づく展示（同時期に市内の様々なポイントで実施）
- ・ 景観コンテスト（潜在的な学習）
- ・ 官学連携による学習プログラムの作成

効果

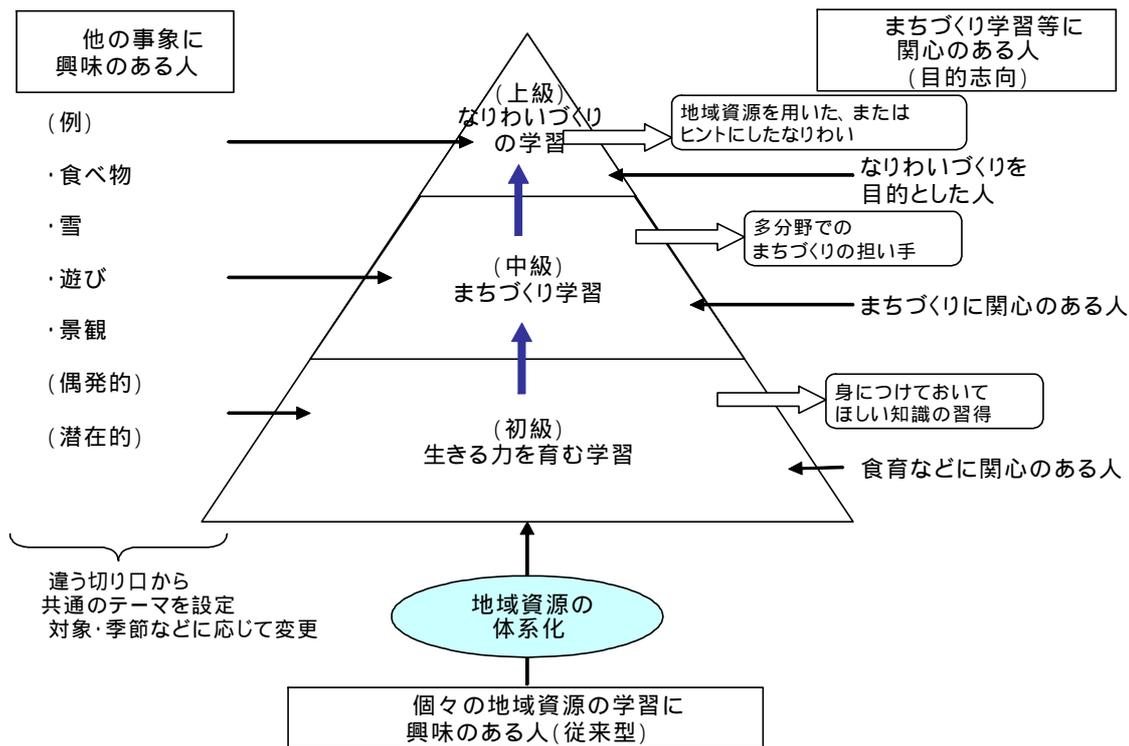
- 地域文化の再認識
 - 生きる力の習得
 - まちづくりを担う能力を有する人材の増加
 - 生きがいづくり（学びは福祉）
 - 交流促進
- （最終的に）目指す姿

1人でも多くの市民が、地域資源との関わりを通じて地元への愛着と誇りをもつとともに、これからの時代を生きていくために必要な力やライフワークを習得する。

基本方針（留意点）

- ・ 特に導入部分においては、興味を誘うようなテーマ設定や、心理学的アプローチを考慮したさりげない設定などにより、学習の対象の幅を広げる。
- ・ 学びのレベルに応じたプログラムを提供する。

全体イメージ図



重点戦略名（仮称）
**5. 体系的な都市基盤をつくる
 （求心性のある空間の創出）**

関連キーワード
 コンパクトタウン（分散集中型・クラスター型・サテライト型・駅を中心とした、公共交通を機軸とした）、中心市街地・公共交通活性化

概要

市内各地区が個性を出しつつ、歩いて楽しく、賑わいがあり、求心力のあるまちの空間を創出する。それらの拠点を結んだ利便性の高い公共交通をまちの骨格と位置づけ、市内を円滑に移動できるしくみを構築する。

取組の一例

- ・ 中心市街地における賑わい空間の創出（まちの顔づくり）
- ・ 各地区の中心部における賑わい空間の創出（地域の茶の間づくり）
- ・ 公共交通ネットワークの再構築
- ・ 地域の拠点と交通の拠点の融合（さとの駅の整備）

効果

都市間競争に打ち勝つための、各地区の個性の追求と市全体の魅力向上

各地区の賑わいの場（新しい公共空間）の創出

来訪者や市内の交通弱者の足の確保による交流促進

- ・ 運動量の増加による生活習慣病予防
- ・ 自動車の減少による環境負荷の削減
- ・ 都市内分権に基づくまちづくりの拠点づくり
- ・ まち歩きの促進による地域発見の促進
- ・ 効果的な防災や減災と災害時対応の円滑化
- ・ 行政の経費削減

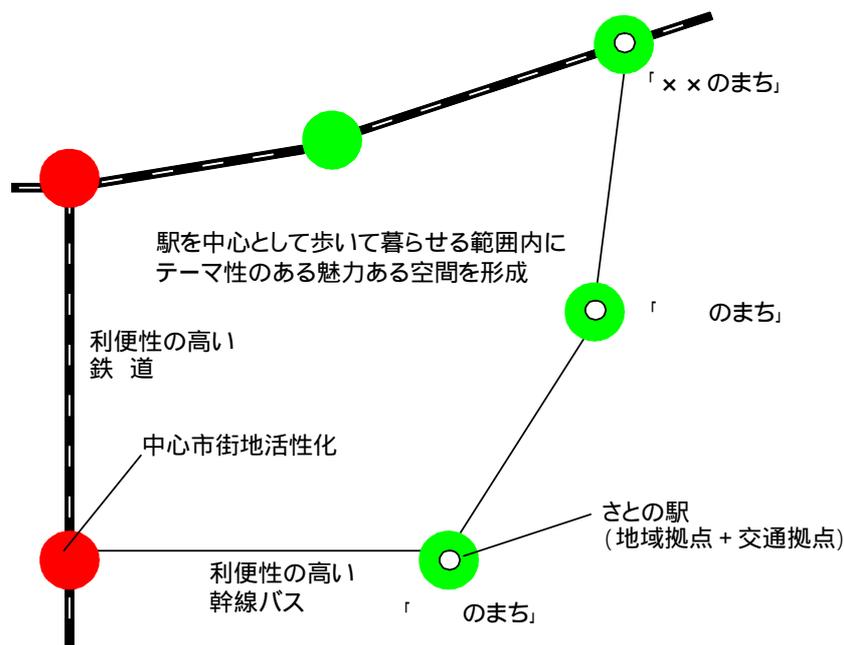
（最終的に）目指す姿

- ・ 「地区といえば」と言えるような個性が育まれる。
- ・ 公共交通の利便性と利用率がマイカーと共存可能な状態まで向上し、歩行者の密度が高いにぎわいのある空間が創出される。

基本方針（留意点）

- ・ マイカー社会を否定するものではない。マイカー中心社会の中で、歩くことや公共交通を利用することの効用を最大限発揮することが目的。

全体イメージ図



まちづくり重点戦略（素案）の連関図

1 上越市を取巻く環境

(地域の持続可能性を左右する社会経済情勢等の変化)

社会環境

- 利便性・快適性・経済効率性の追求
 - 技術革新
 - (一部に)過度な利便性
 - 快適の追求による個人・社会的便益の低下
- 人口構成の変化と人間関係の希薄化
 - 〔人口構成の変化〕
 - 総数の変化(人口減少)
 - 年齢別構成の変化(少子・高齢化)
 - 地域別構成の変化(過疎化・住宅地の昼間人口減少)
 - 家族構成の変化(核家族化)
 - 〔人間関係の希薄化〕
 - コミュニティの衰退
 - 個人情報保護の意識向上
 - 公共心の低下
 - 犯罪の広域化・凶悪化

経済環境

- 経済の広域化・情報化産業構造の変化
 - 〔経済の広域化・情報化〕
 - 重厚長大から軽薄短小
 - 高度情報化(IT・ICT)
 - 高速道路開通・新幹線開通
 - 〔産業構造の変化〕
 - 第一次産業の衰退
 - 第三次産業の増加
- 都市間競争の激化による格差の拡大(下流社会の出現または画一化の進展)

自然環境

- 環境問題の深刻化
 - 異常気象の増加や自然破壊による自然災害の発生・生態系の変化
 - 化学物質汚染の進行

2 直面する課題(分野別)

特段の対策を講じない場合各分野で生じる課題

健康・社会福祉

- a 身体的・精神的に健康な人の減少
 - 生活習慣病の増加
 - 1 高齢化の進展による病気の増加
 - 2 高齢化・核家族化の進展による自殺・孤独死の増加
 - ストレス等による病気・自殺の増加
 - 環境要因による病気の増加
- b セフティーネットを必要とする人の増加
 - 定年退職者・ニートなど
 - 非労働力の増加
 - ワーキングプア・生活保護対象者など低所得者の増加
 - 子育てを行う人の負担増加

教育・文化

- c 教育ニーズの増大と環境の悪化
 - 複雑化・多様化する社会へ対応するための教育内容の増大
 - 1 こどもへの過度な期待
 - 2 生きることの大切さや能力を自然に学べる環境の減少
 - 3 事件・犯罪に対する不安感の増大
 - 経済力の差による学力格差の発生(二極化)
- d 地域文化・歴史的資源の喪失
 - 市民生活面での存在価値低下
 - 経済的な存在価値低下
 - 伝承する担い手の減少

産業経済

- e 地域経済(地場産業)の衰退
 - 生産年齢人口の減少による消費減
 - 農業の衰退 農山村の衰退
 - 域外資本の参入による中心市街地の衰退
 - 公共事業の減少による建設業の衰退

生活(安全安心)・環境

- f 犯罪の広域化・凶悪化
 - 人間関係の希薄化と経済の広域化による国際関係の悪化
 - 国家的問題として
- g 自然災害の増加
 - 自然災害の増加
 - 里山の荒廃による生態系の変化(熊の出没など)
 - 地球環境問題の深刻化
 - 国家的・世界的問題として

3 取組方向

理想と現実のギャップを埋めるため上越市の特性を活かしながら取組む方向性
白抜きは、対症療法的な取組
色塗り箇所は、適応または原因療法的な取組

- 健康相談・病原対策など
- 健康づくりのための学習推進(食育)
- ライフスタイル提案型の健康づくり
- 効果的なセフティーネットの確立
- いきいきと暮らせる機会の確保("地域デビュー"など)
- 学校教育の充実
- 地域ぐるみの子育て・教育
- 域外との交流を通じた教育(広義の"ようこそ先輩")
- 地域文化・歴史的資源の保存と継承
- 地域文化・歴史的資源の新たな価値の創出
- 農林水産業・工業の振興
- 中心市街地の活性化(商業振興)
- 地域内産業連関の強化
- 観光・交流促進による外貨獲得
- 人材確保・育成のための基盤整備
- 災害・犯罪への適切な対応
- 災害・犯罪に強い地域力の向上(減災)
- 災害・犯罪を抑制する都市基盤整備(防災+減災)
- 自然環境等の活用による自然災害の発生源対策
- 生活・自然・地球環境の保全
- 環境教育の推進
- ライフスタイル提案型の環境負荷削減
- 需要に対応した都市基盤整備と維持管理
- 需要を創出・誘導する都市基盤整備
- あらゆる人々の人権の尊重
- 財政運営の健全化
- 行政運営の合理化
- みんなでまちづくりを進めるためのしくみづくり

4 まちづくり重点戦略

取組み課題を具現化するための施策群
これを土台として「重点プロジェクト」を作成

交流(つながり)

- 【1】コミュニティ内の交流("ご近所の底力"向上)
 - 高齢者等の生きがいづくり
 - 子育て・教育の場づくり
 - いざというときの地域力強化
 - 地域別まちづくりを可能とする制度構築
- 【2】市内の交流・循環("地産地消"の推進)
 - 農を活かした健康づくりの推進
 - 子育て・教育の場づくり
 - 地域内産業連関の強化
 - 防災機能の向上
 - 循環型社会の構築
- 【3】市外との交流("上越サポーター"の獲得)
 - (情報交流・交流・三地域居住・定住の「4つの人口」の獲得)
 - * 交流による活力向上(精神的効果等)
 - 子育て・教育の場づくり
 - まちなか観光の推進による中心市街地の活性化
 - 歴史的資源の活用
 - 外貨獲得と新たな雇用の創出
 - 上越のPR
- 【4】体系的な学習基盤("上越の楽校・上越学")
 - 生きる力を育む学習基盤(食育・防災教育・環境教育)
 - 生活習慣病予防
 - 環境啓発
 - リスクマネジメント
- 【5】体系的な都市基盤(求心性のある空間の創出)
 - にぎわいある拠点づくり
 - 地域の個性を活かし魅力を高めるための拠点機能づくり
 - 中心市街地等の活性化
 - "陣形"強化による防災
 - 都市内分権の推進
 - 子育て環境の整備
 - 基幹的交通ネットワークの形成
 - 円滑な交流の促進
 - 環境負荷・社会的費用の削減
 - まちなみウォッチング(愛着 学び まちづくり)
 - 生活習慣病予防(運動)

5 基本理念・将来都市像

まちづくりを進めるうえで大切にしたいこと
目指すまちの姿

- 生きがいをもてるまち
- 生きる楽しみ、ライフワークのプロ
- まちづくり活動、なりわいづくり
- 愛着と誇りをもてるまち
- 地域に根ざし、地域資源を活用した生涯教育・学習
- 交流・出会い
- 地の利(ポテンシャル)の活用
- 人とのつながりを大切にする
- 外部からの力もまちづくりに活用
- 個性と調和(多様性)
- 自然の恵み(海・山・大地)
- 自然とのつながりの再認識
- 学びや感性を育む
- 連携による都市機能の強化
- "チーム上越"
- メンバー構成はいかにあるべきか?
- チームプレーとは?
- 個性と調和ある
- 自然、テーマ、人
- 多様性あつての(相互)交流と都市間競争への対応

行政をとりまく環境(国政等)

地方分権の進展

- 市町村合併
- 財源、権限委譲
- 特区、特別市、道州制
- 国の補助金削減
- 地方交付税の見直し
- 権限と責任の増大

都市整備

都市整備・行政部門へは上記要因が複合的に影響

- h 都市計画と開発の乖離
 - 都市開発と時間遅れのインフラ整備
 - 未利用市街地の増加(住民1人あたりライフサイクルコストの増大)

行財政、自立・共生

人権問題 普遍的問題として

- i 市財政の硬直化
 - 「公」の拡大
 - 「官」のスリム化の要請
 - 市財政の硬直化(税収の減少と固定経費の増加)
 - 市職員削減(増加する行政ニーズと相反)